

生物多様性は棚田の価値向上に寄与するか

Photo:Kenji Hattori

Photo:Nobuhiro Hori

2025・8・23 土 13:30 - 17:00

会場：早稲田大学 早稲田キャンパス 3号館 301 教室（東京都新宿区西早稲田 1-6-1）

参加費無料（要申し込み：裏面参照、WEB 参加可、会員外参加可）

棚田地域の環境は、田んぼの畦や水路、ため池、雑木林、草地などがモザイク状に分布していることにより豊かな生物多様性を保っている。これは農業をはじめとした人々の営みによって成立しており、生物多様性もたらす恵みは生態系サービスと呼ばれ、食料をはじめすべての国民の生存基盤を支えている。しかし時代や環境の変化により、中山間地では耕作放棄の増加に歯止めがかからず、生態系の均衡が崩れ、様々な影響を及ぼしている。これは農業生産のみならず、国土保全を含む多面的機能の危機でもある。国際的な議論では、生物多様性の喪失による人間社会や経済への損失は世界共通課題であり、その回復目標が示されている。そこで本シンポジウムでは、生物多様性の豊かな棚田とはどういうものか、誰がどのように取り組んでいるのか、生産者をはじめ、研究者、NPO、中間組織など、様々な視点を交えて対話し、棚田と環境、社会、経済との関係をとらえ直すことで、いのち輝く棚田と未来を考えるヒントにしたい。

●プログラム

◇ 棚田学会賞受賞者講演（13:00-13:30）シンポジウムに先立ち行います。ぜひこちらにもご参加ください。

1. シンポジウム開会挨拶 高木 徳郎（棚田学会会長 早稲田大学 教授）
2. 本シンポジウムの趣旨説明 小谷 あゆみ（棚田学会研究委員 農ジャーナリスト）
3. 基調講演 生きものへのまなざしは三つ、名前と情愛と概念のどれが大切か
宇根 豊（百姓・思想家・元農と自然の研究所代表理事）

4. 事例報告

① 農村が育む生物多様性と保全

楠本良延（農研機構西日本農業研究センター・中山間地営農研究領域・主席研究員）

② 茶草場と棚田の里千框

堀 延弘（特定非営利活動法人せんがまち棚田倶楽部 事務局長）

③ 棚田の生きもの調査からみえる農の世界

服部 謙次（佐渡市環境アドバイザー・佐渡トキファンクラブ事務局）

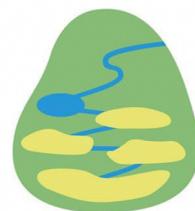
5. 総合討論 パネリスト／基調講演者、事例報告者

司会／小谷あゆみ（棚田学会研究委員 農ジャーナリスト）

6. 総括および閉会挨拶／上野 裕治

（終了後、交流会を予定しています。）

〈後援〉農林水産省、一般社団法人 地域環境資源センター



棚田学会
Rice Terrace
Research Association

講演者、報告者のプロフィール



宇根 豊（うね ゆたか） 百姓・思想家・元農と自然の研究所代表理事

1950年長崎県島原市生まれ。九州大学大学院修了。農学博士。NPO 法人農と自然の研究所代表理事（現在は任意団体）福岡県の農業改良普及員時代に、「減農業運動」を提唱し、虫見板と「ただの虫」を広めた。40歳で就農。棚田7枚を耕作。49歳で県を退職。NPO 法人を設立して「田んぼの学校」、田んぼの生きもの調査、生き物指標を普及し、全種リストを完成させた。同時に農を産業ではなく、「めぐみ返し」にするための政策提言と思想形成に邁進。主な著書『田の虫図鑑』『田んぼの学校』『百姓学宣言』『愛国心と愛郷心』『うねゆたかの田んぼの絵本全5巻』（近刊）『百姓・宇根豊と考える上巻 ロボットは百姓になれるのか』『下巻 殺さずに食べることはできるのか』（以上農文協）『農はいのちをつなぐ』（岩波ジュニア新書）『農本主義のすすめ』（ちくま新書）『日本人にとって自然とは何か』（ちくまプリマー新書）『天地有情の農学』（コモンズ）など。



楠本 良延（くすもと よしのぶ）

農研機構西日本農業研究センター・中山間地営農研究領域・主席研究員

横浜国立大学大学院を修了（学術博士）。専門は植生生態学ならびに景観生態学。2002年に農業環境技術研究所（現農研機構）に採用。農業活動により維持される生物多様性や農村生態系に侵入する外来生物に関わる研究に従事。複数地域の世界農業遺産登録に貢献。2023年より農研機構西日本農業研究センターで、地域資源や生物多様性を活用した農業研究に取り組んでいる。主席研究員。各省庁で生物多様性、世界農業遺産、外来生物対策等の委員を多数歴任。農業生産活動と生物多様性両立の在り方を解明することがライフワーク。



堀 延弘（ほりのぶひろ） 特定非営利活動法人せんがまち棚田倶楽部 事務局長

1957年静岡県生まれ。家業のお茶農家を継いで43年、世界農業遺産「静岡の茶草場農法」による茶の栽培、加工、販売をする倉沢園の園長として、お茶づくりに励む傍ら、400年以上の歴史を持つ千框の棚田の保全活動に平成6年（1994年）より地元茶農家仲間と共に取り組み、平成22年（2010年）特定非営利活動法人せんがまち棚田倶楽部を設立し理事、事務局長として棚田オーナーや関係企業、静岡大学棚田研究会の学生たちとの協働作業のまとめ役として活動している。又、NHK ラジオ第一「マイあさ！」マイあさ便りのコーナーで静岡県のレポーターとしても活動している。



服部 謙次（はっとり けんじ） 佐渡市環境アドバイザー・佐渡トキファンクラブ事務局

1975年生まれ、奈良県出身。北海道大学大学院地球環境科学研究科修士課程修了（生態学）。2003年から北海道と新潟県の普及指導員として農村の現場を歩き、水稲栽培や環境保全型農業などの振興にあたる。2023年退職し、現在フリーランス。島内外で田んぼの生きもの調査を指導。生きもの目線の農業や棚田の価値を伝えるため、農業・生態学・地域を織り交ぜた独特の視点で SNS や雑誌で情報を発信。2024年から佐渡トキファンクラブ事務局（佐渡市委託）として、佐渡のトキや棚田をテーマにしたイベントやツアーを企画。Facebook@hattorikenji310、連載企画：『現代農業』いるとうれしい！田んぼの生きもの図鑑、『日本農業新聞』持続可能なミライ。

〈申し込み〉

参加希望の方は下記URL、右のQRコード、もしくは郵便にて必要事項を記入し送信して下さい。

<https://forms.gle/riT6xkXKHiMA8ueo7>

お問い合わせ：tanada.ac@gmail.com

申し込み締切：8月9日（土）

参加申し込みの個人情報はシンポジウムの連絡以外には使用いたしません。



郵便（〒184-0015 東京都小金井市貫井北町1-14-5-101 ふるきやら内 棚田学会宛）
で申し込みの際は、以下の項目をご連絡下さい。

- ①氏名
- ②メールアドレス
- ③住所
- ④電話番号
- ⑤会員・非会員の別
- ⑥所属
- ⑦交流会参加の有無